

# あいち農産物生産流通レポート

2023年1月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 令和4年度愛知県茶業振興大会が開催されました (園芸農産課)	1
◎ 地域トピックス	
・ うさぎ年にお酒の輸出もジャンプアップ! (西三河農林水産事務所)	2
◎ 東日本情報	
・ キャベツの競合産地の状況と品質について (東京事務所)	3
◎ 西日本情報	
・ 2021年の県内卸売市場における青果物・花きの流通動向 (食育消費流通課)	5
◎ フラワーページ	
・ 首都圏における花きの販売・消費動向 (東京事務所)	6
・ 「あいち花マルシェ2022」を開催しました (園芸農産課)	8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の1月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の1月の見通し(県内市場)	24

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400



## 令和4年度愛知県茶業振興大会が開催されました

園芸農産課

本県では、毎年、県内の茶生産の振興と需要の増進を図り、茶業の発展に寄与することを目的として、愛知県、西尾市、豊田市、新城市、豊橋市、田原市、愛知県茶業連合会の共催により愛知県茶業振興大会が開催されています。

## 1 愛知県茶品評会

茶の栽培技術を向上させるため、県内各茶産地の新茶を一堂に集めて出来映えを競う品評会が2022年7月5日(火)から6日(水)にかけて行われました。県内の各産地からてん茶(抹茶の原料)を始めとした4茶種117点の出品がありました。今年は、平年より3月上旬の気温が低く、3月中旬と4月中下旬は気温が高くなるなど気温の変化が大きかったにもかかわらず、出品されたお茶の多くは品質が良く、レベルの高い品評会となりました。

厳正な審査の結果、1等19点、2等20点、3等19点の入賞が決まりました。また、1等入賞者には、10月26日(水)に県立農業大学校において行われた表彰式で、農林水産大臣賞を始めとする特別賞が授与されました。



審査風景



表彰式

## 2 消費拡大の取組

県内の多くの方にあいちの茶を知っていただくため、愛知県茶業振興大会の事業として、県内で開催される常滑焼まつりや農大祭などの各種イベントに、関係者が出向いてお茶の試飲や販売などを行い、お茶のPRをしています。

今年度はさらに、2023年1月に大手量販店で県内産茶葉の展示や抹茶の石臼挽き体験等のPRイベントを予定しています。



イベントへの出展

## うさぎ年にお酒の輸出もジャンプアップ！

西三河農林水産事務所

丸石醸造株式会社は1690年（元禄3年）の創業以来、岡崎城下で清酒を造り続けています。国内のアルコール需要が年々減少する中、2011年から海外を含む販路拡大を行ってきました。二兎・徳川家康・三河武士といった清酒に加え、近年は愛知県産を中心とした果実等をフレーバーとして清酒に添加したリキュール類も製造しており、海外でも人気商品となっています。

### 1 輸出拡大に向けた取組

清酒・リキュール類の輸出に際し、輸出先のバイヤーからはHACCP基準に基づいた衛生管理手法の実施や国際認証の取得が望まれていました。

当社の歴史を感じる酒蔵はHACCPの基準に達しておらず、国際認証ISO22000(※)取得は困難な状況でした。そこで、国の「食品産業の輸出向けHACCP等対応施設整備緊急対策事業」を活用し、コンサルタントの指導を受けつつ仕込蔵などの改修や機材の導入を行い、HACCP基準を満たす衛生管理及び製造工程を確立することとしました。

### 2 今後の見通し

2023年2月に改修や機材導入を完了し、2024年3月までにISO22000認証を取得することを目標としています。また、2027年の輸出額を2021年より50%以上増加させることを目指しています。

2023年はうさぎ年ですが、特に中国・香港・台湾では二兎のラベルが「縁起がいい」とのことで正月用に大量の注文がありました。

事業の活用により、従業員の衛生管理意識の向上が図られ、今後は衛生的な施設・設備での生産により、これまで以上の輸出増加が期待されます。

※ISO22000：食品衛生管理システムであるHACCPを基礎にした食品安全規格



歴史を感じる酒蔵内部



改修前／改修後



二兎のラベル



## キャベツの競合産地の状況と品質について

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

京浜市場愛知県野菜連絡会キャベツ研究会（首都圏の青果卸売会社 12 社で構成）は、毎年、愛知県産キャベツの入荷が本格化する 12 月初旬に、首都圏の競合産地調査と入荷物の品質検討会を行っています。

本年は 12 月 6 日（火）に産地調査が、12 月 8 日（木）に品質検討会が行われました。

### 1 競合産地調査

愛知県産キャベツの主な競合産地は千葉県と神奈川県であり、調査は、千葉県銚子市、神奈川県三浦市及び横須賀市を対象に行われています。毎年同じ地域を同じ時期に調査することによって、生育や結球の進度を例年と比較するとともに、今後の入荷状況を予測します。

今回は例年と異なり愛知県内産地からの参加はなく、卸売会社 6 社及び JA あいち経済連東日本営業所職員、愛知県東京事務所職員が参加して行われました。

#### （1）千葉県

東部地区、西部地区ともに生育は平年並の進度で遅れは見られず、葉は大きく、順調に生育していました。これまでの高温や降雨の影響で、調査時に収穫期となっているキャベツには黒腐病の発生が散見されましたが、年末、年明けに収穫となるものには発生していませんでした。これらのことから、年末、年明けと潤沢な出荷が続くと見込まれました。



千葉県のほ場の様子

#### （2）神奈川県

神奈川県ではだいこん収穫後にキャベツを定植する作付体系が多い中、全体的にだいこんの生育遅れにより収穫されていないほ場が目立ち、例年よりも耕起あるいはキャベツが定植されたほ場が少ないのが印象的でした。しかし、キャベツの苗は順調に生育しており、定植が遅れすぎるとキャベツの生育に大きく影響することから、だいこ

んの収穫を年内に終え、定植作業が進むものと推察されました。

定植されているキャベツの生育は順調で、目立った病害虫の発生はありませんでした。前進化すれば出荷がまとまる可能性があるものの、寒い時期が続くことから、今後は山谷なく安定した出荷が続くと見込まれました。



神奈川県のお場の様子

## 2 品質検討会

卸売会社 10 社の参加により、愛知県産のほか首都圏近在産の冬系と春系、それぞれ秀 8 玉の入荷物について品質検討された後、JA あいち経済連東日本営業所職員、愛知県東京事務所職員も参加して市場情勢などの情報交換が行われました。

### (1) 冬系

愛知県内 5 産地\*及び茨城県産の 6 産地について検討されました。全体的に病害虫や結球の割れはみられず品質は良好でしたが、一部産地に対して外葉の多さが指摘されました。

### (2) 春系

愛知県内 4 産地\*及び神奈川県産、千葉県産の 6 産地について検討されました。冬系同様、全体的に品質は良好でしたが、愛知県内産地で 10kg 規格に対して 14kg のものについては、過重との評価がありました。

※産地：地域の違いのほか、出荷団体の違いを含む



品質検討の様子

### (3) 総評及び情報交換

総評における「いずれも品質は良好であり、潤沢な入荷で単価安が続いている現在の状況を象徴している。」との言葉が印象的でした。

情勢については「野菜全般が潤沢な中でキャベツを売る店は少なく、量販店での売れ行きは鈍い。」と各社から報告されました。「そのため年末商戦も厳しく、値を上げるタイミングの見極めが重要。」という意見が多く出され、各社が愛知県産キャベツを継続して売っていくために苦慮している様子がうかがわれました。

## 2021年の県内卸売市場における青果物・花きの流通動向

食育消費流通課

## 1 名古屋市中心卸売市場及び県内地方卸売市場の青果物について

## (1) 2021年の野菜及び果実取扱数量

野菜については、名古屋市中心卸売市場の取扱数量は42万7千t（2016年比110.1%）で、5年前と比べて3万9千t増加しました（表1）。このうち、県内産野菜は7.4万tでした。一方、県内地方卸売市場の取扱数量は10万4千t（同86.0%）で、5年前と比べて1万7千t減少しました。このうち、県内産野菜は4万2千tでした。

果実については、名古屋市中心卸売市場の取扱数量は9万9千t（同96.1%）で、5年前と比べて4千t減少しました。このうち、県内産果実は8千tでした。一方、県内地方卸売市場の取扱数量は3万7千t（同82.2%）で、5年前と比べて8千t減少しました。このうち、県内産果実は1万4千tでした。

## (2) 青果物の取扱数量における動向

県内地方卸売市場では、名古屋市中心卸売市場と比べ、野菜、果実ともに取扱数量の減少率が大きくなっています。その主な要因として、小規模農家の減少や、個人農家の販売チャンネルが多様化していることにより、地方卸売市場への出荷量が減少していることが挙げられます。

表1 県内の中央卸売市場および地方卸売市場における青果物の取扱数量

		2021年			2016年		
		全体	県内産	県産シェア	全体	県内産	県産シェア
名古屋市中心	野菜	42.7	7.4	17.3%	38.8	7.3	18.8%
	果実	9.9	0.8	8.1%	10.3	1.2	11.7%
県内地方	野菜	10.4	4.2	40.4%	12.1	5.1	42.1%
	果実	3.7	1.4	37.8%	4.5	1.6	35.6%

[単位: 万t]

(注) 表は小数点以下第2位を四捨五入しています。

## 2 県内地方卸売市場の花きについて

## (1) 2021年の切り花及び鉢物取扱数量

切り花の取扱数量は2億3千3百万本（同100.9%）で、5年前と比べて2百万本増加しました（表2）。このうち、県内産切り花は8千4百万本でした。

鉢物（花壇用苗物等含む）の取扱数量は6千万鉢（同96.8%）で、5年前と比べて2百万鉢減少しました。このうち、県内産鉢物は2千3百万鉢でした。

## (2) 花きの取扱数量における動向

切り花の取扱数量は、市場全体は横ばいである一方で、県内産は減少傾向にあります。

鉢物の取扱数量は、市場全体、県内産ともに減少傾向にあります。

表2 県内の地方卸売市場における花きの取扱数量

		2021年			2016年		
		全体	県内産	県産シェア	全体	県内産	県産シェア
県内地方	切り花	23.3	8.4	36.1%	23.1	9.7	42.0%
	鉢物	6.0	2.3	38.3%	6.2	2.5	40.3%

[単位: 千万本、千万鉢]

(注) 表は小数点以下第2位を四捨五入しています。



## 首都圏における花きの販売・消費動向

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

首都圏での各種行事における花きの販売・消費動向等について、株式会社大田花きから話を伺いましたので、概要を紹介します。

### 1 首都圏における各種行事の動向について

#### (1) クリスマス商戦の動向

首都圏に展開する花き小売店では、毎年クリスマスのテーマカラーを変えています。2021年は落ち着いたベージュ系をコンセプトとした色味に集中していましたが、2022年は王道の赤系のバラや、白系のバラでホワイトクリスマスを打ち出している店舗もあります。赤系や白系の花と合わせる花材としては、冬らしくするためにシルバーの葉物や、40～60cm程に枝を切ったヒムロスギやブルーアイス、モミノキ等、緑系と合わせる王道スタイルに戻ってきています。

切り花では、赤系、白系のポインセチアや、ピンク系、白系のプリンセチアも人気で、カラーバリエーションは増えてきています。ポインセチアやプリンセチアは、クリスマスの鉢物としてなじみ深いですが、切り花にすることができます。また、日持ち性が良いのも特徴で、鉢物ではクリスマスまでとなりますが、切り花では新年まで楽しむことができオススメです。

また、愛知県育成品種かがり弁菊は、花卉が華やかであり、プロモーション次第でクリスマス商戦に乗ることができる可能性があります。市場からは、出荷量増加やPRをしてほしいという強い要望がありました。



ヒムロスギ



ブルーアイス



プリンセチア (ピンク系、白系)



#### (2) 年末商戦の動向

洋菊のディスバッドマムは高級感のある飾り付けができることで人気があり、市場では活発に取引がされています。赤系スパイダー咲きの「チスパ」や、「フェゴダーク」は金色の資材と合わせることで高級感を出すことができます。近年では菊離れがあるものの、ディスバッドマムは品種開発が進むことにより、様々な咲き方の品種が増え、消費者の多様な嗜好に対応できるようになりました。



ディスバッドマム「フェゴダーク」



一方、正月用の床の間飾りの花材として、雲竜梅、啓翁桜、白梅、赤い花が綺麗なボケ（木瓜）、香りの良いロウバイ（蠟梅）、和風な松、千両が例年通り出ています。しかしながら、これまではホテルのディスプレイ用など、生け込み花として需要があり、高単価の切花長が長い上位規格の生産が主でしたが、近年では、サブスクリプション※（以下、サブスク）の拡大により、ホームユースとして60cm程の短い規格の需要が増えてきています。短い規格は、価格は安くなりますが大量の注文があり、安定した需要となっています。例えば、啓翁桜では例年80cm程の規格が中心ですが、50cm程の短い規格を新しく作るなどの取組があります。



雲竜梅

※ サブスクリプション：月額など定期的に料金を支払い、動画視聴などコンテンツやサービスを一定期間利用すること。

## 2 鉢物の動向について

### (1) 母の日の動向

母の日ギフト全体での市場取引量は減少傾向であり、コロナ禍で移動制限による人流抑制があった時は一時的に増えましたが、移動制限がなくなってからは再び減少しています。ネット利用した販売も行う大手コンビニチェーン店では、販売に大きな影響は見られないと思われませんが、店頭販売主体の店舗では、販売数量が減ってきています。また、5,000円を超える価格帯の高級なアジサイなどから、3,000円程の食品ギフトへシフトする傾向があり、母の日ギフト全体での鉢物の販路は縮小してきています。

### (2) お歳暮の動向

お歳暮全体での市場取引量は減少傾向であり、特に大口となる企業間でのやり取りが希薄になり販売量は減ってきています。一般消費者でもお歳暮の文化が薄くなってきていることが要因で、販売量は減ってきています。

## 3 菊の消費動向について

コロナ禍により、花の消費形態に変化がみられます。家で楽しむホームユースとして、花のサブスクが増えてきており、宅急便サイズやポストインサイズ（薄くて小さいサイズ）があります。菊は葬儀需要のイメージが強いですが、ポストインサイズでは、ディスプレイバッドマムやスプレーマムの変った品種（「ダンテレッド」、小輪のポンポン咲き「ドリア」等）が使われています。

また、菊需要の新規開拓として、花き小売店や量販店等、花き業界全体で、重陽の節句（9月9日）や、いいマムの日（11月6日）にポスターやSNSを活用してPRに取り組んでいます。



スプレーマム  
「ドリア」

## 「あいち花マルシェ2022」を開催しました

園芸農産課

本県は、59年連続で日本一の花の生産を誇る「花の王国」です。本県では、毎年、県民参加型の「花と緑のイベント」を開催し、「花の王国あいち」のPRに取り組んでいます。

本年度も、県民の皆様が本県の素晴らしい花を見て、触れて、購入できる「あいち花マルシェ2022」を名古屋市・栄エリアで開催し、あいちの花の魅力を広くPRしました。

### 1 開催概要

#### (1) 日時

2022年11月17日（木）から11月20日（日）まで 4日間  
各日午前10時から午後5時まで

#### (2) 場所

名古屋市・栄エリア  
オアシス21、久屋大通庭園フラリエ、NHK名古屋放送センタービル

#### (3) 主催

あいち花マルシェ2022実行委員会  
構成：愛知県、名古屋市、JAグループ愛知（中央会・連合会）、愛知県花き温室園芸組合連合会、名古屋生花小売商業協同組合、一般社団法人JFTD、中日新聞社

### 2 あいち花マルシェ2022の結果

#### (1) 来場者数

約40,000人

#### (2) 花マルシェ（あいちの花の販売）売上

約560万円

#### (3) 結果の概要

本年度は、植物から始まるサステイナブルな暮らしをテーマに、消費者が花の生産者の想いや花を長く楽しむ方法を学び、「つくる責任・つかう責任」などのSDGsにもつながるイベントとして、開催しました。

各会場には、年齢や性別に関わらず、多くの方が来場され、花の体験教室やステージイベントなどを楽しみつつ、多くの「あいちの花」を購入していただきました。また、「あいちの花」をふんだんに使ったメインディスプレイや生産者ディスプレイはフォトスポットとして賑わいました。

来場者から、「家族で楽しめた。」「たくさんの素敵な花が販売されていて驚いた。」「また来年も開催してほしい。」という声が多く聞かれました。

### 3 内 容

#### (1) 花マルシェ（あいちの花の販売）

「オアシス21」で、県内の生産者団体や小売店等を中心に、季節のあいちの切花や鉢物などを販売しました。

また、あいちの花を気軽に購入できる通販サイト「あいち花マルシェ2022ポップアップ・ストア」を期間限定で開設し、ネット上でも販売しました。



花マルシェ（あいちの花の販売）

#### (2) 花のディスプレイ

今年も世界で活躍する名古屋市出身の写真家HASEO氏によるステージ兼フォトスポット「花のメリーゴーランド」を展示したほか、生産者団体等によるディスプレイ展示を行いました。



花のメリーゴーランド



生産者団体ディスプレイ

#### (3) 花の体験教室

「あいちの花」を使ったフラワーアレンジメントや寄せ植え、ワークショップ等の体験教室を開催しました。



フラワーアレンジメント体験



カラーリングマム体験



#### (4) あいちフラワーコンテスト

県内の花き生産者から切花・鉢物 270 点が出品されました。審査の後、イベント期間中に一堂に展示し、展示終了後に販売しました。



コンテストの展示

#### (5) ステージイベント

一般社団法人 J F T D のフローリストによるフラワーデザインデモンストレーションや花き関係者と名古屋モード学園の産学連携によるフラワーファッションショーなどを開催し、会場を盛り上げました。



フラワーデザインデモンストレーション



フラワーファッションショー

#### (6) ジャパンカップ東海ブロック代表選考会

一般社団法人 J F T D 主催のフラワーデザインコンテスト「ジャパンカップ」の東海ブロック代表選考会を同時開催し、本イベントを盛り上げました。



ジャパンカップ東海ブロック代表選考会



## 愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下  
 わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

### ○ 名古屋中央卸売市場（品目：こまつな）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)
		うち愛知産	愛知産	
2022年実績※	3,058	269 (9%)	347	茨城(47%) 岐阜(29%) 静岡(10%)
2023年見通し	3,360	—	310	—
<b>概要と見通し</b>		<b>卸売市場から産地への要望・提言等</b>		
関東産地では、一割程度作付面積が増えている。1月は冷え込みが強まると予想され、生育が鈍り、低温が続く2月前半頃までは落ち着いた入荷となる見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。		愛知は高齢化により入荷量が減少傾向にあるが、これからも地元産を安定供給していくため、作付面積と出荷量の維持を引き続きお願いしたい。 ※2022年12月の実績が出ていないため、2021年12月～2022年11月の数値を2022年実績として標記しています。		

### ○ 東京都中央卸売市場（品目：セルリー）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)
		うち愛知産	愛知産	
2022年実績※	7,855	553 (7%)	261	長野(40%) 静岡(24%) 福岡(12%)
2023年見通し	7,900	—	260	—
<b>概要と見通し</b>		<b>卸売市場から産地への要望・提言等</b>		
全国的に作付面積の減少傾向が続いており、愛知を含めた秋冬産地も例外でない。秋冬産地では定植時期に台風および長雨が続き、出荷開始時期の出荷量は少なかったものの12月に入ると好天の影響から出荷量は回復し、今後は順調に出てくると予想される。青果物全般の出回りが多い中で販売環境は苦しく、価格はしばらく軟調か。入荷量、価格ともに、前年並となる見込み。		顧客に紐づけた販売を行うため、品質維持と安定供給が求められる。精度の高い情報発信とあわせて取組を続けてもらいたい。 ※2022年12月の実績が出ていないため、2021年12月～2022年11月の数値を2022年実績として標記しています。		

名古屋・東京市場における青果物の1月の見通し

名古屋市中央卸売市場

※グラフは白抜き箇所が見通しとなります。

12月15日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	28,157	290	365	271	261	愛知 26%
	2019年	29,711	227	261	218	215	北海道 20%
	2020年	30,386	216	254	206	200	茨城 10%
	2021年	32,315	223	241	218	213	熊本 5%
	2022年	30,877	234	253	233	226	鹿児島 5%
	5カ年平均	30,289	237	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	28,300	257	—	—	—	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、北海道などが中心となる。だいこん、キャベツ、ほうれんそうは、前進傾向のため、1月の入荷量が減る見込み。ほうれんそう、きゅうり、ピーマンは、冷え込みの影響により、数量が減る予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						
だいこん	2018年	1,442	183	217	205	142	千葉 40%
	2019年	1,704	64	75	61	65	静岡 22%
	2020年	1,721	68	91	68	61	鹿児島 14%
	2021年	1,633	88	102	85	85	神奈川 8%
	2022年	1,790	79	87	71	85	愛知 8%
	5カ年平均	1,658	94	111	94	86	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,650	80	80	80	80	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	千葉、静岡、鹿児島などから入荷する。各産地とも昨年の安値の影響で、作付面積は減少傾向。千葉、愛知は前進傾向のため、1月の入荷は少なくなる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。						
にんじん	2018年	1,509	182	172	194	172	愛知 94%
	2019年	1,853	101	109	106	93	鹿児島 3%
	2020年	1,965	97	123	105	79	千葉 1%
	2021年	2,166	118	133	130	102	茨城 1%
	2022年	2,192	94	112	96	85	
	5カ年平均	1,937	115	128	123	103	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,000	100	100	100	100	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知を中心に入荷する。生育良好で、安定した入荷を見込む。最盛期に入るため、数量も多い見込み。大玉傾向で推移し、2L、L中心の入荷を予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。						

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。  
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

12月28日 現在

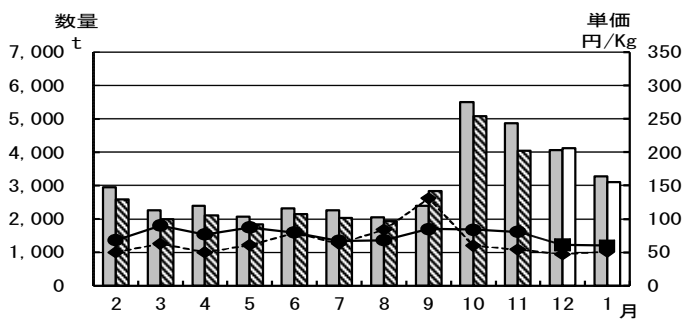
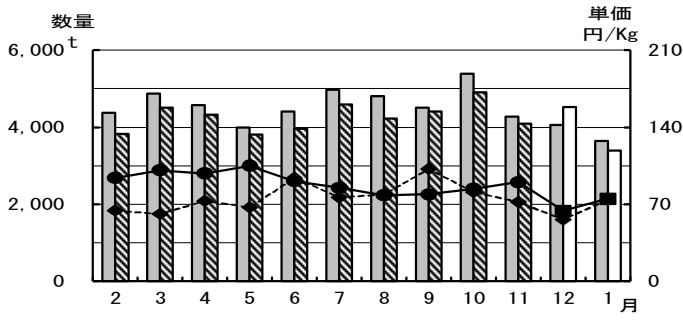
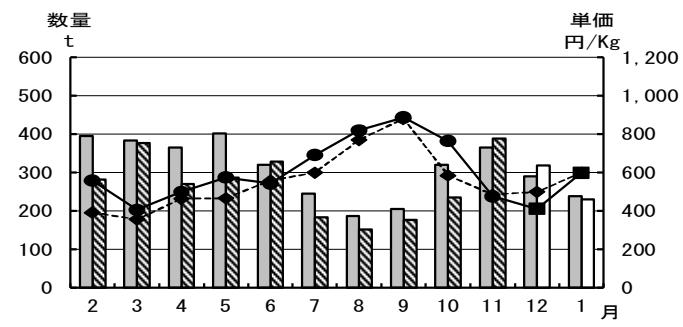
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	108,242	321	385	300	297	千葉 18%
	2019年	115,548	242	264	234	235	茨城 17%
	2020年	119,510	234	269	221	223	愛知 11%
	2021年	113,571	249	265	241	244	北海道 10%
	2022年	111,631	247	273	238	242	神奈川 5%
	5カ年平均	113,700	258	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	112,000	250	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。前月中旬以降の冷え込みにより、それまで潤沢だった入荷は量を減らした。気温低下で生育が停滞する品目が多いものの、不足感の出る品目は少ないか。入荷量、価格ともに前年並となる見込み。							
だいこん	2018年	9,325	193	222	203	157	千葉 47%
	2019年	10,975	67	70	64	67	神奈川 44%
	2020年	11,290	75	88	72	67	徳島 4%
	2021年	10,597	90	103	80	88	鹿児島 1%
	2022年	10,328	76	88	67	77	福岡 1%
	5カ年平均	10,503	98	111	94	89	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	10,500	80	85	75	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉、神奈川からの入荷が中心となる。主力の関東産地は生育順調で肥大も良好。ピークに入っており潤沢な入荷が見込まれる。年末上がった相場は落ち着いた展開となるか。入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。							
にんじん	2018年	6,012	154	140	150	169	千葉 79%
	2019年	7,049	103	102	114	93	埼玉 9%
	2020年	6,378	129	143	131	119	茨城 5%
	2021年	6,788	141	142	143	138	愛知 2%
	2022年	6,544	100	114	105	89	鹿児島 1%
	5カ年平均	6,554	125	128	128	121	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6,800	115	120	115	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉を中心に埼玉などからの入荷となる。主力の千葉は一部では種時の大雨による影響があるも、その後天候に恵まれ生育順調。また、各産地とも生育順調で肥大も良好。潤沢な入荷が見込まれる。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

12月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2018年	2,875	170	188	166	163	茨城 52%
	2019年	3,222	49	57	48	46	兵庫 25%
	2020年	2,859	64	84	60	55	愛知 15%
	2021年	3,383	52	55	53	51	三重 4%
	2022年	3,287	51	51	53	49	宮崎 3%
	5カ年平均	3,125	75	84	74	71	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	3,100	60	60	60		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、兵庫、愛知を中心に入荷する。各産地とも生育順調で、安定した入荷となる見通し。量販店、漬物加工業務ともにまずまずの動きとなり、堅調な荷動きを予想。入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
キャベツ	2018年	2,728	178	258	179	143	愛知 81%
	2019年	2,711	92	78	94	100	茨城 7%
	2020年	3,241	60	72	57	58	三重 5%
	2021年	3,834	85	86	87	85	滋賀 4%
	2022年	3,641	74	67	75	79	静岡 1%
	5カ年平均	3,231	94	107	95	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	3,400	75	75	75		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に茨城などから入荷する。愛知は、前進出荷となっているため、1月下旬は入荷量が少なくなる見込み。業務需要の回復見込みはなく、相場の乱高下はない予想。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年並の見込み。</p>					
ほうれんそう	2018年	196	906	1,047	849	887	愛知 44%
	2019年	263	534	504	550	544	茨城 26%
	2020年	310	523	618	526	486	徳島 7%
	2021年	256	649	732	680	596	群馬 7%
	2022年	239	600	545	607	621	静岡 6%
	5カ年平均	253	625	670	628	608	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	230	600	600	600		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に茨城などから入荷する。各産地、前進傾向のため、上、中旬の入荷は少ない予想。厳寒期に入り、生育は停滞傾向が予想され、少ない入荷となる見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>					



東京都中央卸売市場

12月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうれんそう	2018年	13,431	149	146	147	153	茨城 87%
	2019年	14,178	37	41	38	35	群馬 7%
	2020年	13,992	60	72	57	53	兵庫 2%
	2021年	15,004	37	37	37	36	埼玉 2%
	2022年	13,901	39	39	41	37	和歌山 1%
	5ヵ年平均	14,101	63	66	63	62	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	14,000	40	45	40	35	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に群馬などからの入荷となる。主力の茨城は、冷え込みはあるものの生育順調で肥大も良好。鍋需要があるものの出回りは潤沢で相場展開は厳しく、ここ数年同様の安値となるか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は概ね10,000t前後で推移し、単価は40円/kg前後で推移しています。</p>					
キャベツ	2018年	11,821	198	248	192	171	愛知 64%
	2019年	12,805	100	90	100	106	千葉 21%
	2020年	15,382	68	83	65	61	神奈川 8%
	2021年	12,887	99	103	98	98	茨城 4%
	2022年	15,006	79	74	77	84	静岡 1%
	5ヵ年平均	13,580	105	115	103	101	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	14,500	75	85	75	65	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に千葉、神奈川などからの入荷となる。定期的な降雨に恵まれた時期があった一方、干ばつ傾向が続き、冷え込みもあって落ち着いた出方となるか。作付け量は十分で、出回りに不足はない見込み。 入荷量、単価ともに前年をやや下回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は概ね15,000t前後で推移し、単価は60円/kg前後で推移しています。</p>					
ほうれん	2018年	1,164	815	1,045	718	769	群馬 36%
	2019年	1,319	535	589	545	495	茨城 33%
	2020年	1,564	527	689	485	476	埼玉 11%
	2021年	1,409	610	708	588	563	千葉 8%
	2022年	1,282	595	617	600	577	栃木 6%
	5ヵ年平均	1,348	609	721	580	568	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,250	560	610	580	490	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。11月の気温が高めに推移したことで生育は前進していたものの、12月中旬以降は冷え込みで生育停滞。前進化の影響で前半は少なめの出方も後半は回復か。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は概ね1,000t前後で推移し、単価は500円/kg前後で推移しています。</p>					

名古屋市中央卸売市場

12月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	844	498	557	523	460	大分 26%
	2019年	969	362	466	371	306	静岡 18%
	2020年	1,044	348	434	360	295	群馬 13%
	2021年	854	490	582	518	410	長野 11%
	2022年	990	368	461	353	335	愛知 7%
	5カ年平均	940	408	495	419	356	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,000	400	400	400	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>大分、静岡、群馬などから入荷する。各産地、天候の影響も少なく、順調な出荷を予想。越津ねぎは、ピークを迎え、順調な入荷を予想。白ねぎは出揃い、下旬頃に増加し、ピークとなる見込み。 入荷量は前年並、価格は前年をかなり上回る見通し。</p>					
し	2018年	1,136	446	646	393	339	兵庫 27%
	2019年	1,465	244	251	250	235	静岡 18%
	2020年	1,636	220	232	211	225	愛知 17%
	2021年	1,369	247	243	229	262	熊本 15%
	2022年	1,385	272	279	255	289	長崎 11%
	5カ年平均	1,398	277	315	261	266	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,300	270	270	270	270	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫、静岡、愛知などから入荷する。各産地、生育は良好で平年並の出荷を見込む。L中心の入荷見込み。厳寒期で消費は活発ではないが、面積が減少傾向にあるため、堅調な販売を予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
きゅうり	2018年	1,198	424	414	426	432	愛知 59%
	2019年	1,312	410	442	398	395	宮崎 16%
	2020年	1,184	522	529	444	592	鹿児島 14%
	2021年	1,235	360	344	353	381	高知 11%
	2022年	1,157	361	324	328	423	
	5カ年平均	1,217	415	411	390	443	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,200	380	380	380	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に宮崎、鹿児島などから入荷する。年始は安定した入荷で、中旬以降は落ち着いた入荷を予想。中～下旬に向けて、節分と、冷え込みによる入荷量減少から、高値になる見込み。 入荷量、価格ともに前年をやや上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

12月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	4,940	424	498	389	409	千葉 28%
	2019年	5,578	318	386	317	274	茨城 20%
	2020年	5,831	304	368	242	215	埼玉 19%
	2021年	4,935	462	538	442	425	群馬 12%
	2022年	5,447	303	410	287	258	栃木 9%
	5ヵ年平均 2023年見通し	5,346 5,600	358 320	436 340	331 320	311 300	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、茨城、埼玉など関東産地からの入荷が中心となる。千葉など一部産地は生育が前進傾向。他の産地は生育順調。いずれも肥大良好で太物比率が高く、冷え込みがあっても十分量が出回る見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は安値だった前年をやや上回る見込み。</p>					
しそ	2018年	5,144	450	681	400	330	静岡 33%
	2019年	6,945	240	247	245	230	長崎 17%
	2020年	7,409	209	218	199	210	香川 12%
	2021年	5,996	233	229	216	250	兵庫 8%
	2022年	5,984	274	284	254	289	福岡 6%
	5ヵ年平均 2023年見通し	6,296 5,700	272 290	315 290	256 290	257 290	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、長崎、香川からの入荷が中心となる。各産地とも気温高により生育は前進傾向であったものの、12月中旬以降の冷え込みにより生育は停滞。前倒し出荷の影響で端境となり強めの相場となるか。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
きゅうり	2018年	4,720	462	432	478	475	宮崎 43%
	2019年	4,553	458	518	439	425	千葉 18%
	2020年	4,062	607	647	504	674	高知 15%
	2021年	4,711	389	364	394	406	茨城 8%
	2022年	4,611	374	331	345	436	群馬 7%
	5ヵ年平均 2023年見通し	4,531 4,400	454 480	453 540	430 410	478 490	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎、千葉、高知からの入荷が中心となる。冷え込みにより一部産地では生育遅れがみられるも、全体的にはおおむね生育順調。着果は良好で入荷に不足はない見込み。月末は恵方巻き需要で相場上昇か。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

12月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	390	444	452	441	444	熊本 58%
	2019年	400	394	375	384	422	愛知 38%
	2020年	415	407	388	390	451	高知 4%
	2021年	367	396	356	385	442	
	2022年	399	369	343	359	402	
	5カ年平均	394	402	383	392	432	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	390	370	350	360	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>熊本、愛知を中心に入荷する。上旬は正月明けで数量もまとまるが、中旬以降は厳寒期で出荷量も少ない見込み。熊本はL・Mの小玉が中心の入荷を予想。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>							
ト マ ト	2018年	1,186	352	423	347	297	熊本 48%
	2019年	1,104	258	237	258	282	愛知 22%
	2020年	1,065	285	252	283	320	三重 15%
	2021年	1,267	242	261	254	220	岐阜 12%
	2022年	996	278	289	268	287	大分 3%
	5カ年平均	1,124	283	294	282	279	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,100	270	260	280	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>熊本、愛知、三重、岐阜が中心となる。安定した入荷を見込み、中旬以降は若干減少予想。愛知、熊本ともに、玉は肥大化傾向にあり、箱数は伸びてきているため、小玉の引き合いが強くなるか。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>							
ミ ニ ト マ ト	2018年	389	756	730	767	787	熊本 73%
	2019年	500	576	509	569	659	愛知 22%
	2020年	463	573	464	581	694	和歌山 3%
	2021年	539	513	449	551	548	宮崎 2%
	2022年	589	546	532	539	567	
	5カ年平均	496	583	528	591	640	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	590	550	500	550	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>熊本、愛知を中心に入荷する。順調な入荷を見込む。増量傾向で、大玉中心の入荷となる予想。作付面積は、年々増加傾向のため、総入荷は前年より多い見込み。燃料費等の高騰による暖房の節減により、出荷量が伸び悩む恐れ。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。</p>							



東京都中央卸売市場

12月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	2, 130	460	431	475	476	高知 66%
	2019年	1, 974	453	405	441	512	福岡 15%
	2020年	2, 032	463	413	447	539	熊本 12%
	2021年	1, 966	459	409	470	499	佐賀 3%
	2022年	2, 159	404	354	404	442	栃木 2%
	5カ年平均	2, 052	447	402	447	493	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2, 100	440	420	430	470	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知、福岡、熊本などからの入荷が中心となる。気温低下の影響で生育は緩慢も樹勢に大きな問題はない。着花、着果は安定しており、順次出てくると予想されるも、冷え込み次第で入荷を大きく減らすか。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
<p>熊本、栃木、愛知からの入荷が中心となる。各産地とも生育はおおむね順調。主力の熊本は前年のような病害多発はない。気温低下により着色が遅いため大きな増量はないものの出回りに不足はない見込み。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>							
マ ト	2018年	5, 692	397	465	391	337	熊本 41%
	2019年	5, 767	314	294	308	337	栃木 20%
	2020年	5, 243	336	312	327	373	愛知 14%
	2021年	5, 937	299	314	310	277	静岡 5%
	2022年	5, 215	339	356	327	340	千葉 4%
	5カ年平均	5, 571	337	348	333	332	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	5, 400	330	370	320	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、栃木、愛知からの入荷が中心となる。各産地とも生育はおおむね順調。主力の熊本は前年のような病害多発はない。気温低下により着色が遅いため大きな増量はないものの出回りに不足はない見込み。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
<p>熊本、愛知、千葉などからの入荷となる。主力の熊本を始め各産地とも生育は順調で着果も良好。大きな山谷なく安定した入荷が続き、不足感はない見込み。重油高の影響で量を減らす懸念はある。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>							
ミ	2018年	1, 615	724	706	724	746	熊本 45%
	2019年	1, 885	554	481	538	652	愛知 16%
	2020年	1, 776	571	473	566	681	千葉 13%
	2021年	1, 979	505	466	529	521	宮崎 9%
	2022年	1, 976	560	560	530	595	静岡 7%
	5カ年平均	1, 846	578	533	572	634	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1, 900	580	540	570	630	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、千葉などからの入荷となる。主力の熊本を始め各産地とも生育は順調で着果も良好。大きな山谷なく安定した入荷が続き、不足感はない見込み。重油高の影響で量を減らす懸念はある。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
<p>熊本、愛知、千葉などからの入荷となる。主力の熊本を始め各産地とも生育は順調で着果も良好。大きな山谷なく安定した入荷が続き、不足感はない見込み。重油高の影響で量を減らす懸念はある。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

12月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	408	689	598	687	731	鹿児島 62%
	2019年	349	654	569	667	694	宮崎 27%
	2020年	361	637	567	607	794	高知 10%
	2021年	411	553	442	584	643	
	2022年	395	484	398	475	601	
	5カ年平均	385	602	513	603	691	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	400	533	450	550	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
鹿児島、宮崎、高知から入荷する。冷え込みの影響から、年明けまで数量はあるが、その後減少し、下旬まで数量は少なく、中、下旬は単価高となる見込み。 入荷量は前年並、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。							
ばれいしょ	2018年	2,614	123	102	122	133	北海道 59%
	2019年	2,553	120	116	119	121	鹿児島 20%
	2020年	2,864	81	88	84	74	長崎 20%
	2021年	2,605	205	158	207	227	
	2022年	2,388	247	230	254	248	
	5カ年平均	2,605	152	136	154	158	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,600	125	125	125	125	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道を中心に鹿児島、長崎から入荷する。北海道は、計画出荷で安定した入荷を見込み、L中心。鹿児島は、生育回復しつつあり、1月上旬より男爵の出荷を開始。長崎は、昨年より多いが小玉傾向。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。							
たまねぎ	2018年	5,146	96	101	95	96	北海道 92%
	2019年	4,992	122	138	115	126	静岡 5%
	2020年	4,469	82	80	84	83	
	2021年	5,817	85	82	88	86	
	2022年	4,845	165	172	193	149	
	5カ年平均	5,054	109	114	114	107	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	5,000	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道主体で静岡からも一部入荷する。北海道は、貯蔵物のため安定した入荷。L大中心の流れを予想。静岡は、生育順調で、平年作の見込み。L中心の予想。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

12月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	1,380	728	657	751	766	宮崎 51%
	2019年	1,315	714	633	730	754	高知 19%
	2020年	1,348	703	617	655	835	鹿児島 17%
	2021年	1,603	604	493	610	686	茨城 11%
	2022年	1,656	540	415	513	657	沖縄 1%
	5カ年平均	1,460	651	554	645	734	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,500	660	640	660	680	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎を中心に、高知、鹿児島などからの入荷となる。一部産地では気温低下により生育が遅延傾向。他の産地は生育に問題はないものの、低温のため肥大が緩慢で大きな増量は見込めず、相場は堅調か。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>				
	ばれいしょ	2018年	7,390	123	117	123	125
2019年		7,626	118	124	118	115	鹿児島 19%
2020年		8,307	87	89	87	85	長崎 14%
2021年		6,932	199	166	199	217	
2022年		6,305	241	233	242	243	
5カ年平均		7,312	149	141	149	152	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し		7,000	150	150	150	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道と九州からの入荷となる。貯蔵から入荷する北海道は、2021年産のような不作ではないものの歩留まりが悪い。鹿児島は生育、肥大とも順調も、長崎は干ばつで小玉傾向。総じて入荷は多くない見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ		2018年	9,520	107	101	103	115
	2019年	8,179	144	132	140	153	静岡 10%
	2020年	8,126	95	93	96	94	中国 6%
	2021年	9,474	94	91	96	94	
	2022年	7,977	190	191	187	193	
	5カ年平均	8,655	124	120	123	128	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	8,300	115	110	115	120	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に静岡などからの入荷となる。貯蔵からの入荷となる北海道は、量多くはないものの順調に入荷される見込み。静岡も平年並の入荷を見込む。総じて出回りに不足はないか。入荷量は前年をやや上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>				

名古屋市中央卸売市場

11月17日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	6,999	440	482	427	400	静岡 26%
	2019年	7,988	394	402	367	385	青森 15%
	2020年	7,344	416	462	339	382	フィリピン 14%
	2021年	8,204	382	426	366	374	愛知 11%
	2022年	7,616	424	491	408	412	愛媛 8%
	5ヵ年平均	7,630	410	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	8,200	380	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	いちご、みかん、りんごなどが主な品目となる。りんごは、長野産の出荷が年内で終了し、市場滞留物が残る予想。また、青森産は、輸出の締切も終わり、国内向け出荷が増える見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
みか	2018年	1,833	401	425	425	360	静岡 66%
	2019年	2,681	285	282	281	296	愛知 16%
	2020年	2,345	289	324	301	272	和歌山 6%
	2021年	2,954	241	258	230	241	熊本 5%
	2022年	2,974	277	285	277	276	広島 2%
	5ヵ年平均	2,557	290	305	293	283	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,900	260	270	260	250	
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡を中心に愛知などからも入荷する。静岡は青島中心の販売となり、前年よりは多い見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
いちご	2018年	598	1,540	1,704	1,494	1,421	愛知 51%
	2019年	635	1,440	1,493	1,430	1,481	熊本 31%
	2020年	508	1,737	1,918	1,670	1,644	鹿児島 7%
	2021年	687	1,469	1,570	1,431	1,411	佐賀 4%
	2022年	459	1,987	2,176	1,912	1,891	福岡 3%
	5ヵ年平均	577	1,607	1,738	1,562	1,546	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	600	1,500	1,600	1,500	1,400	
ち	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、熊本を中心に入荷する。12月上旬の天候次第だが、昨年と異なり、入荷に大きな谷はない見込み。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

12月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	31,100	507	610	481	476	静岡 19%
	2019年	34,638	453	516	423	446	愛媛 16%
	2020年	33,257	457	545	430	435	青森 14%
	2021年	35,662	448	516	423	432	和歌山 8%
	2022年	32,811	507	611	486	481	熊本 7%
果	5カ年平均	33,494	465	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
果	2023年見通し	34,000	495	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>みかんを中心にいちご、りんごなどが入荷する。柑橘類では熊本の無加温不知火の入荷が始まるも「デコポン」の割合は平年よりも少ないか。りんごは青森が中心で、降雨の影響で大玉傾向の見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>						
みかん	2018年	10,940	377	379	382	369	静岡 42%
	2019年	13,524	301	286	292	318	長崎 14%
	2020年	13,991	276	279	277	274	和歌山 12%
	2021年	14,575	252	248	249	258	愛媛 11%
	2022年	13,765	279	276	276	285	熊本 9%
みかん	5カ年平均	13,359	293	289	291	297	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
みかん	2023年見通し	14,100	275	270	275	280	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>静岡の「青島」を中心に長崎、和歌山などから入荷する。年内の天候が良かったことから各産地生育は順調で、入荷量は前年を上回り、Lサイズが中心となる見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。</p>						
いちご	2018年	3,780	1,549	1,702	1,517	1,436	栃木 49%
	2019年	3,839	1,473	1,499	1,420	1,490	福岡 16%
	2020年	3,000	1,799	1,975	1,739	1,692	茨城 11%
	2021年	4,390	1,474	1,531	1,431	1,460	静岡 7%
	2022年	3,551	1,833	2,033	1,791	1,727	佐賀 6%
いちご	5カ年平均	3,712	1,610	1,727	1,565	1,550	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
いちご	2023年見通し	3,800	1,750	1,800	1,750	1,700	
産地状況と	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>栃木を中心に福岡、茨城などから入荷する。栃木は生育順調で1月上旬から2番果が出始める。福岡も生育順調で1月中旬から2番果が出始める。全体では1番果、2番果が連続し安定した入荷となる見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						

# 切花・鉢花の1月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 12月28日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2018年	1, 5 7 6	5 3	
		2019年	1, 6 6 6	5 4	
		2020年	1, 4 8 5	5 3	
		2021年	1, 2 2 2	3 3	
		2022年	1, 1 1 1	5 5	
	5カ年平均		1, 4 1 2	5 0	
2023年見通し		1, 2 0 0	5 0		
概要	愛知中心に入荷。上旬は少なめ、中旬以降増えてはくるが、例年よりも少ない入荷となる見込み。業務中心の動きとなりそう。				
小 ぎ	実績	2, 018	6 1 4	3 5	
		2, 019	6 8 4	4 0	
		2, 020	8 1 3	3 0	
		2, 021	5 4 2	3 2	
		2, 022	6 4 1	2 7	
	5カ年平均		6 5 9	3 3	
2023年見通し		6 5 0	3 0		
概要	沖縄中心に入荷。上旬の入荷量は少なめに推移するが、中旬以降は安定した入荷が見込まれる。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2, 018	7 4 6	4 5	
		2, 019	8 6 4	4 6	
		2, 020	8 7 4	4 1	
		2, 021	7 3 5	3 5	
		2, 022	7 6 4	5 0	
	5カ年平均		7 9 7	4 3	
2023年見通し		7 7 0	5 0		
概要	愛知中心に入荷。若干の遅れはあるが、ダラダラとした出荷となり、輸入は例年並の入荷が見込まれる。				
か す み 草	実績	2, 018	1 7 4	7 0	
		2, 019	1 6 7	5 7	
		2, 020	1 4 8	8 2	
		2, 021	1 1 8	7 6	
		2, 022	1 2 3	1 0 6	
	5カ年平均		1 4 6	7 7	
2023年見通し		1 2 0	1 0 0		
概要	高知、和歌山、熊本からの入荷となる。11～12月中旬まで気温高で推移したことによりかなり前進傾向となっている。気温が低めに経過すれば少な目の入荷となる見込み。				



単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2,017	233	217	
		2,018	209	326	
		2,019	235	180	
		2,020	122	282	
		2,021	169	179	
	5カ年平均		194	233	
2022年見通し		180	180		
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、埼玉、愛知から、鉄砲ユリは高知、鹿児島から、LAは埼玉、高知中心に入荷する。12月下旬の低温、降雪により年末見込分がずれているものもあり、1月上旬は多くなるだろうが、その後は落ち着いた入荷となりそう。</p>				
洋らん	実績	2,018	394	84	
		2,019	449	72	
		2,020	469	81	
		2,021	274	78	
		2,022	263	110	
	5カ年平均		370	83	
2023年見通し		270	100		
概要	<p>高知、徳島、愛知、静岡等の国産物や輸入物が入荷する。デンファレのタイ産は、入荷少なめに推移するが徐々に増加する。オンシジュームは船便のため、入荷が安定せず、カトレアは例年並の見込みだが、寒暖厳しく入荷に偏りがでそう。コチョウランの輸入物は諸々のコスト高によりあまり多くは望めない。シンピジウムは厳寒で遅れが出ており、例年を超える入荷が見込まれる。</p>				
ばら	実績	2,018	620	65	
		2,019	524	76	
		2,020	520	83	
		2,021	410	78	
		2,022	462	99	
	5カ年平均		507	79	
2023年見通し		460	90		
概要	<p>愛知、岐阜、三重、和歌山を中心に入荷。年明け直ぐに成人の日があり、需要が見込まれるが寒さで入荷は少ない見込み。</p>				
枝もの	実績	2,018	1,226	48	
		2,019	1,187	48	
		2,020	1,170	51	
		2,021	812	51	
		2,022	1,110	54	
	5カ年平均		1,101	50	
2023年見通し		1,100	50		
概要	<p>年明けは燃油の高騰から促成花木の出荷は少ない見込みだが、旧正月向けの輸出需要は旺盛。ガマヅミ、アカシア類の無加温物は順調な入荷予定。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
工 績	実 績	2018年	12,475	191	
		2019年	12,921	172	
		2020年	9,553	208	
		2021年	9,488	176	
		2022年	9,822	280	
	5ヵ年平均	10,852	205		
	2023年見通し	7,500	247		
力 要	概要	<p>入荷量は前年より減少か。全国的な生産減から入荷量も少なくなる見込み。品種としてはジャノメエリカ、スズランエリカで3.5号から4号が中心となる。2022年度止市から2023年度初市にかけての期間が長く、年初来1週間ほどは好市況が期待できる反面、冷え込みの厳しさが増す月末に向けて徐々に軟調となっていく見込み。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位②新潟（30.2%）、2位山梨（27.4%）、3位静岡（16.6%）となっている。</p>			
プ 要	実 績	2018年	434,800	80	
		2019年	390,400	95	
		2020年	437,705	88	
		2021年	290,753	104	
		2022年	357,676	96	
	5ヵ年平均	382,267	93		
	2023年見通し	350,000	97		
ラ 要	概要	<p>入荷量は前年より減少か。中心品目のジュリアン、ポリアンともに作付け減及び昨夏の天候不順の影響が出ている状況である。1月中旬以降は前年並の入荷量と思われる、暖かい日が続けば価格も安定するが総じて安価で推移する見込み。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（38.5%）、2位埼玉（15.9%）、3位栃木（8.9%）となっている。</p>			
チ 要	実 績	2018年	31,700	224	
		2019年	36,588	207	
		2020年	34,845	209	
		2021年	36,800	208	
		2022年	39,692	233	
	5ヵ年平均	35,925	216		
	2023年見通し	39,000	236		
プ 要	概要	<p>入荷量は前年並か。関東は4～5号、愛知は4号サイズが中心で、その他のサイズは年々減少傾向。価格は他同様に輸送コスト等高騰している為、全体に値上げ傾向にある。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（26.1%）、2位富山（17.4%）、3位埼玉（16.6%）となっている。</p>			

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	2018年	42,745	249	
		2019年	44,420	279	
		2020年	38,470	280	
		2021年	34,967	286	
		2022年	38,213	290	
	5カ年平均	39,763	277		
	2023年見通し	38,000	289		
概要	<p>入荷量は前年並か。昨年は開花遅れにより年内出荷ができず年明けからの出荷となったが、今年は年内より順調に出荷できている。5～6号は埼玉・栃木・茨城・東北産地、4号は愛知・三重・岐阜・埼玉を中心に入荷する。価格面においては前年と大きく変わらない見込みだが、年々成人式需要が減少傾向のため競売次第で変動する。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(29.1%)、2位愛知(14.4%)、3位茨城(13.0%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	2018年	33,426	199	
		2019年	37,423	198	
		2020年	30,759	217	
		2021年	30,759	217	
		2022年	39,139	240	
	5カ年平均	34,301	214		
	2023年見通し	39,000	241		
概要	<p>入荷量は前年並で、4号・5号中心の入荷となる。価格は中盤以降低迷が予想される。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(33.9%)、2位岐阜(16.1%)、3位静岡(15.9%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	2018年	20,267	584	
		2019年	19,042	651	
		2020年	14,713	665	
		2021年	13,085	617	
		2022年	11,882	709	
	5カ年平均	15,798	645		
	2023年見通し	12,000	630		
概要	<p>入荷量は前年並か。開花待ちからの年明け出荷で増える商品もあるが、切れ間や作付け自体を減らしている状況。使いやすさから小鉢サイズ、作付けの少ない大鉢などはある程度の引き合いが期待できると思われる。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(40.7%)、2位岡山(24.1%)、3位高知(14.2%)となっている。</p>				



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.595  
2023年1月発行  
農業水産局農政部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434